

●平成29年3月16日第7回会議で議論いただく内容について事前に連絡させていただきます。

第7回会議の予定

【議題1】高山市新火葬場建設に関する基本構想について

○「高山市新火葬場建設に関する基本構想について（案）」について、ご審議いただきます。

参考：第6回会議（1月12日）の内容

- ・福祉の観点から、身内のない方が葬儀をできないということがあるため、小さな葬儀場が必要では。他の都道府県の方が高山で亡くなり、高山で葬儀をしなければならない時に、素早く対応できる施設があるとよい。
- ・葬儀場があり、全てのことができる火葬場であってほしい。1カ所で全てのことができる施設が望まれている。
- ・霊安室は、ご遺体を仮置きするスペースであり、通常では使用しないため、予備的な部屋と考えていただくとうい。
- ・葬儀場を設けるならば、宿泊のための設備が必要となる。
- ・火葬場ができれば周囲に町ができ、葬儀関係事業者で採算が合うと見込めば、近くに葬儀場を作ることが想定される。事業者已全部を委ね、市は最小限必要な火葬場だけを考えていくことのほうがよい。
- ・火葬場に葬儀場を併設しても月に1回か2回しか利用しないという他市の事例から、葬儀場を併設させることがどうなのかと思う。
- ・国民年金で暮らす一人暮らしの人が今後増え、家族葬も増える。火葬場併設の葬儀場があれば、どれだけでも安く葬儀をできるようになるのではと思う。遺族控室には遺体に付添いできるスペースが必要ではないか。
- ・この委員会では、火葬場については火葬炉4基、併せて待合室も4室ということの基本を進めていく。委員の中で、葬儀場のことも意見が出てきたということを付随させて、市及び議会に提出するという方向のほうが前に進んでいくのではないか。
- ・市民感情ではワンストップであれば便利だという感覚はあるが、葬儀場を設けることで敷地面積が増加し、候補地の制約につながることで、周辺地区の慣習に利用頻度が左右されること、現実に葬儀の費用が安価になるかわからないことなどを懸念している。
- ・現在、民間の葬儀関係事業者で家族葬も火葬場までの送迎もやっているのだから、葬儀場の必要性を感じない。また、親族ではない者も家族葬に参列するのだから、葬儀場を設けるならば、収容人数が40人では少ないのでは。
- ・この地域には寺院が多く、民間の葬儀場の運営も確立している。家族葬に寺院を活用できるから、現段階では葬儀場は必要ないとする。
- ・30年も40年も使われるうち、世間の変化がどれだけあるかわからない。図では葬儀場とされているが、葬儀場でなくてもよい。何にでも利用できる予備室とか多目的室といったスペースが必要だと考える。
- ・面倒なことを嫌がるあまり、便利さを優先して葬儀場を設けることで、死が人の尊厳からかけ離れてしまうように感じられる。
- ・今後、独居老人や老人世帯も増える中でどういった要望が出るのかはわからないし、火葬場の建設を必ず一期工

事でやらなければならないのか。長い目で見て、施設の詳細を突き詰めすぎないように、これぐらいの大きさの敷地が必要となるという案を作ればよいのでは。

※詳細については議事録を確認いただきますようお願いいたします。

以上